

令和3年度第1回 いわき市子ども読書活動推進委員会議事録

日 時 令和3年10月15日(金) 午後2時00分～3時25分
 場 所 いわき総合図書館 学習室
 出席者 委員長 柳内 博明(いわき総合図書館長)
 委員 渡部 純子(いわき地区高等学校司書研修会)
 佐藤 崇(文化振興課)
 長谷川 由美(草野心平記念文学館)
 久保木 敦子(平地区保健福祉センター)
 川崎 裕絵(こども家庭課)
 千葉 健太郎(学校教育課)
 山上 ひとみ(学校教育課総合教育センター)
 欠席者 田中 淳一(福島県教育庁いわき教育事務所)
 永沼 絵莉子(いわき芸術文化交流館)
 西野 あや(こども支援課) 安齋 由恵(生涯学習課)
 事務局 いわき総合図書館 武山副館長 大浦副館長 桑原情報資料係長
 村木主査 山形事務主任 大桃

- 1 開 会 武山副館長
- 2 あいさつ いわき総合図書館長
- 3 議事 【議長：柳内館長】

(1) 第三期いわき市子ども読書活動推進計画の事業評価について 委員長

【資料1】第三期いわき市子ども読書活動推進計画の事業実績について、各課から説明していただく。本日欠席している課の事業については、総合図書館が代わりに説明する。

【こども支援課】

村木主査

事業	説 明 内 容
保育所・幼稚園における絵本の貸出 (p 1)	園内の図書コーナーを設置し、絵本の貸し出し等を行っている。子どもが絵本を身近に感じられるよう、施設からの貸出100%を目指し、できない園へは訪問を実施する、貸出している園のやり方を紹介するなどしながら、取り組みを拡充していく。
保育所・保育園を通じた月間絵本定期購読の情報提供 (p 1)	月刊絵本の購入は、友達と同じ絵本を見ること、園で見た絵本を家庭で見ること、子どもと保護者が一緒に絵本の楽しさを共有できる。昨年はコロナウイルス感染症対策で施設の絵本の貸出ができなくなったため、月間絵本を活用し、家庭で保護者も絵本に興味を持ってもらい、親子で楽しい時間を共有するよう伝えている。施設の絵本コーナーについては、利用しやすい場所に設置し、子どもたちが絵本に興味を持つことができるよう進めていく。

光絵本セットの利用 (p 4)	セットの中に大型絵本なども入っていることから、子どもの興味をひきやすく、幅広い子供の年齢に合わせて活用できるセットであることを伝えている。いつもとは違う大型絵本の魅力から、子どもたちが共通理解でき、絵本の楽しさを伝えられる。
職員に対する研修の実施 (p 10)	総合図書館での研修を行い、図書館職員と実際に絵本に触れながら、絵本選びや読み聞かせの研修を実施することで、職員の絵本への興味を引き出すことができた。
保育所・保育園においてお便りを活用した情報提供 (p 13)	「この本よんだ？」の掲示が唯一の絵本情報となっており、掲示によるおすすめ絵本の紹介を行いながら、保護者への情報提供の在り方について考えていく。

【生涯学習課】

村木主査

事業名	説明内容
子ども読書に係るボランティア育成事業の実施 (p 11)	平成 30 年に生涯学習プラザや中央台公民館において、よみきかせや絵本の講座を実施した。読み聞かせについて学ぶ機会を提供し、今後のボランティア育成につなげることができたが、市民講座は各公民館により企画されることから、この取り組みは終了となる。
ボランティア団体と市民とのマッチング (ボランティアコーディネーター) の実施 (p 12)	令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催回数の削減もあったが、読み聞かせボランティアに、幼児を対象とした本の読み聞かせ講座の講師を依頼することにより、ボランティア団体等の活動の場を提供することができた。
他の団体や施設と連携した事業の開催等の相互協力 (p 13)	令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止や開催回数の削減もあったものの、実施館 5 館、講座数 9 講座で実施し、受講者数 201 名であった。
様々な機会を通じた絵本 (布の絵本、さわる絵本等) 作りの推進 (p 13)	令和元年度に総合図書館と生涯学習プラザ連携で「手づくり絵本講習会」を開催し、講習会后、「手作り絵本展」への出品にもつながったが、絵本を展示する機会が少ないことから、終了となっている。

【総合図書館】

村木主査

総合図書館では、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から、事業の見直しや中止となる取り組みも多くあった。

事業名	説明内容
「赤ちゃんパック絵本」の貸出の実施 (p 1)	令和 2 年度実績 341 パック、1,984 冊であった。あかちゃんへのおすすめ絵本パックは忙しい保護者も短時間で簡単に借りることができると好評で、今後も計画的にパックの貸出を進めていく。

様々な場所や機会をとらえたお話会の実施（p 2）	昨年度はコロナウイルス感染症対策を行いながら、総合図書館は6回開催で114人参加、地区図書館は22回開催174人参加となっている。
子ども司書育成事業の実施（p 3）	読書に興味・関心のある子どもたちに、図書館見学・おすすめ本のPOP作成・ビブリオバトルなど、図書館について学ぶ機会を設け、11名のこども司書を認定した。
「季節の紙しばい」コーナーの設置（p 4）	毎月季節を先取りした紙芝居を展示した。よみきかせ団体からの貸出が多く、お話会などで利用されており、継続して紙芝居の充実を図っていく。
外国語絵本の充実（p 5）	令和2年度は外国語絵本の蔵書数が1,122冊で、支援を必要としている子どもたちや外国語教育の一助となっているため、継続して資料の整備をしていく。
外国語の絵本を活用した取り組み（p 6）	昨年度は絵本や児童書のテーマ展示を3回実施し、子どもたちが国際資料に親しむきっかけとなっている。
「この本よんだ？」団体用パックの貸出（p 7）	新型コロナウイルスの影響により団体用パック・調べ学習支援パックの貸出がなく、テーマ別図書の貸出は22校466冊だった。今後も団体用パックやしらべ学習パックのPRを行いながら、資料の整備を図り、学校図書館支援のため、積極的に提供していく。
テーマ別調べ学習支援パックの貸出（p 7）	
「あかちゃんへの初めての絵本事業」における情報提供（p 14）	コロナウイルス感染拡大防止から、令和2年度は会場でのパンフレットの配布のみ73回となっている。今後も感染状況を見ながら、赤ちゃん絵本の情報提供と、読み聞かせの啓発により、乳幼児期からの読書活動を推進していく。
「赤ちゃんへのおはなし会」の開催（p 15）	令和2年度は31名で、感染症対策を行いながら、赤ちゃんへの読み聞かせを親子で体験してもらうことができた。今後も継続して実施していく。
「この本よんだ？」最新号の配布（p 15）	幼児、小学校低学年・中学年・高学年、中学生におすすめの本紹介冊子2000部を発行し、利用者及び市内小中学校・幼稚園・保育所に配布しているが、掲示用ポスターと合わせて本を選ぶ際の参考となる情報を提供していく。

【子ども家庭課】

川崎委員

事業名	説明内容
「赤ちゃん絵本プレゼント事業」の実施（p 1）	令和2年度1,342冊、メッセージカード、名前シール付きで送付した。赤ちゃんに絵本に触れさせる重要性を十分に周知できた。乳幼児期における絵本の読み聞かせを通じ、親子の触れ合いの大切さを伝えるため、今後も継続していきたい。しかけ絵本が絶版となったため、絵本の内容は一部変更し実施予定。申請率が減少傾向にあるため、読書による子どもとの触れ合いの時間に対する保護者の意識を高めるにはどうすべきか課内で協議している。

<p>子育てサポートセンター利用の子どもへの、絵本を通して親子が触れ合える場の提供（p 4）</p>	<p>親子のコミュニケーションを深める手段の一つとして絵本を活用・紹介している。家庭での参考にしてもらえるような絵本選びや助言を行っている。積極的に絵本を活用したり紹介することによって、親子が触れ合い、楽しめる場の提供を今後も継続していきたい。「この本よんだ？」や移動図書館の日程表を「ご自由にお持ちください」という形で掲示している。今年度も続けたい。また、今年度からおすすめの絵本コーナーを設置し、保育士の選んだ良い絵本を手に取りやすい場所に置いている。課題として、感染対策のため自由に本を触ることが難しいため、管理できる範囲内で感染対策をしながら、絵本に親しんでもらいたい。</p>
<p>親子手帳を活用した情報提供（p 14）</p>	<p>妊娠期から広く情報発信していくことができる。妊娠期から子育て期まで、長く活用する母子（親子）健康手帳への掲載により、いつでも啓発することができることから継続とする。今後も母子（親子）健康手帳を活用し、「読書の大切さ」について啓発を図る。子育ての情報提供量が多く、絵本の情報が印象に残りにくい点が課題である。</p>
<p>プレママ・プレパパクラスでの情報提供（p 14）</p>	<p>令和2年度実績は開催数16回/年、プレママ224人・プレパパ218人参加。これまでは教室の中で、絵本や赤ちゃん向けの絵本を紹介していたが、コロナ対策で縮小版での開催となったため、絵本の紹介については省略せざるを得ず情報提供できなかった。今後通常開催に戻った際は、絵本等を通して、子育てのイメージ化、母性・父性の形成促進につながり、今後の読書週間形成にも寄与できるため、継続とした。今後も状況に応じて機会をとらえた情報提供、絵本の充実を図っていかなければならない。</p>

【学校教育課】

千葉委員

事業名	説明内容
<p>学校司書や図書ボランティアによる読み聞かせやブックトーク等の実施（p 3）</p>	<p>小学校では100%、中学校は半分程度の学校で実施。学校司書や図書ボランティアによる読み聞かせやブックトークの実施により、各学校の読書活動が充実している。</p>
<p>各学校における目標読書量の設定（目標読書量設定校の拡充）（p 3）</p>	<p>小・中学校では目標読書量の設定と併せて、読書活動の促進を図るために、読み聞かせや必読書・推薦図書コーナーの設置などが行われている。発達段階に応じた読書活動を推進する。読書量より質を重視している部分があるが、中学校の不読率の高さを解消するため、ひと月に一冊も本を読まない生徒数を減らすことを共通課題として取り組んでいる。</p>
<p>学校図書館の資料や、市立図書館からのテーマ別貸出等の利用した学校図書館を活用した学習活動の充実（p 4）</p>	<p>令和2年度は小学校55校、中学校13校が利用した。学校司書が総合図書館との連携を図る役割を担い、授業者や子どもたちの希望に応じて、学校図書館にない図書の団体貸出を利用している学校が増えている。特に総合的な学習の時間等で、子どもたちが活用している。</p>

読書コーナーの充実（p 9）	各校においては、子どもたちの興味関心を高めるため、校内の展示コーナー（読書コーナー）を随時変更しながら、学校司書を中心に取り組んでいる。コーナーを充実することで、児童生徒が多くの本に興味関心を持ち、読書のきっかけ作りとなっている。図書館内だけでなく、廊下や昇降口にコーナーを作る学校もあり、創意工夫がなされた。
----------------	---

山上委員

事業名	説明内容
教職員に対する図書館研修の実施（p 9）	希望参加だった研修を悉皆としたことで、市全体としての図書館教育のねらいや学校図書館教育についての共通理解を図ることができた。今年度も同様に研修を設け、来年度につなげていきたい。
学校司書の資質・能力向上等に関する研修の充実（p 9）	令和2年10回。研修の回数を精選し、学校現場で子どもと関わる時間を増やすとともに、地域別研修会を設けるなど、研修内容の工夫を図ったが、コロナのため地区別研修が行えなかった。今後研修に工夫が必要だと考えている。
学校司書の人員拡充（p 10）	平成28年度より、市内全小・中学校に学校司書を配置している。学校司書による環境整備や蔵書管理、授業支援が充実された。しかし、学校を掛け持ちしている司書もいるため、十分な活用ができていない学校もある。

【いわき芸術文化交流館】

村木主査

事業名	説明内容
様々な場所や機会をとらえたおはなし会の実施（p 2）	<p>○あそび工房 磐城高等学校読み聞かせ愛好会「青空おはなし便」や市内在住の声優・ナレーターによるおはなし会。または子ども店長（あそび工房に協力してくれる子どもたち）による絵本の読み聞かせと工作との連動ワークショップ</p> <p>○アリオス キッズルーム・シアター 市内在住音楽家による楽器演奏と絵本の読み聞かせの共演や、その他アーティストによる読み聞かせ</p> <p>○キッズ★アリペ（フリーペーパー・WEBサイト） 感染症の流行によるステイホーム期間中に楽しんでいただくために、フリーペーパー「キッズ★アリペ vol.92」内で「あそび工房」で読み聞かせをしているスタッフ等によるおすすめ絵本を紹介し、WEBサイトにも掲載した。</p> <p>令和2年度は感染症の影響により、高校生による「おはなし会」を開催できなかったが、絵本の紹介記事を作成してもらいフリーペーパー「キッズ★アリペ」に掲載するなど、絵本の普及活動に取り組むことができた。</p> <p>令和2年度は「アリオス キッズルーム・シアター」においても、絵本の読み聞かせを含んだプログラムは行わなかった。しかし、過去に絵本の読み聞かせを取り入れながら実施したコンサートの様子を、出版社に許可をいただき期間限定でYouTubeで無料公開した。</p>

以上について、委員からの質問、意見はなし。

(2) 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の概要について

桑原係長

【資料2】について説明。

(質疑応答)

渡部委員

【資料2】について、「高校生の読書アンケート」の団体名を「福島県学校司書研究会」から「福島県高等学校司書研修会」に修正していただきたい。

桑原係長

修正いたします。

(3) 本市の読書活動の状況と読書環境の現状について

大桃

【資料3】及び次第p5～8について説明。

(質疑応答)

川崎委員

p7、学校図書館における新聞の配備状況について、新聞は全ての学校に配備されているものと思っていたので、数値を見て驚いた。新聞を配備する、しないといった決定権は誰にあるのか。

千葉委員

各学校の裁量に任せている。すべての学校の職員室等に新聞は配備されているが、子どもが閲覧できる図書館や空きスペースに新聞を設置している学校は、残念ながら全校ではない。

(4) 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の現状値と目標値について

大桃

次第p9について説明。

(質疑応答)

渡部委員

次第p9、高校生の「本の入手方法」について、去年はコロナ感染症対策のための休館で、公共図書館の開館時間が短くなっていた。部活動が終わってから電車で図書館まで来るとなると開館時間に間に合わず、利用できないことが多いようだった。ネット予約等も利用していたが、休日、学校へ行かない日に図書館まで出向かなくてはならないのは不便だった。「地域の図書館に週一回以上行く割合」も休館の影響が大きい。今後もコロナ禍は継続されるが、できるだけ休館は少なくして欲しい。図書館は休館しても授業はあるので、授業で必要な資料が借りられないのは困るという意見が地区館から上げられた。今回のような休館が長引く場合、学校などの団体に対して、部分的なサービスでよいので、可能な対応をしてほしい。Web予約の冊数など、現在は一度に10冊までしか予約できず、たくさん借りたいときは分けて予約しなければならないので、予約冊数を増やす、FAXで予約リストを送るなどの対応を考えていただきたい。閉館中も、通常対応に戻った後も、学校側の使い勝手はかなり良く

なると思う。

また、小中学校の図書館利用、団体貸出に対しては、休館中どのような対応をしていたのか伺いたい。

大浦副館長

確かに臨時休館中に団体の貸出冊数 200 冊に対して予約冊数 10 冊は少ないと実感した。

村木主査

小学校の調べ学習については、休館中であっても学校で必要ということで、FAX で調べるテーマを聞き、20 冊程度選書して近くの公民館などへ送り、貸出ししていた。

大浦副館長

高校についても、臨時休館中の FAX での申し込みなど、これから検討していくべきだと感じた。今回意見を聞くことができて良かった。学校司書の先生からは色々な意見が出ていると思うが、こういった機会でなくてもぜひ仰っていただけるとありがたい。

委員長

休館については、市全体で公共施設の休館を実施していたため、今後どのあたりまで解消できるかわからないが、当局の方にお伝えしたい。

(5) 今後のスケジュールについて

山形事務主任

【資料 4】について説明。

委員からの質問、意見はなし。

委員長

図書館に対しての連携、要望など、一人一言お願いします。

渡部委員

要望としては、コロナ禍でも常に図書館を利用できる状況であることが重要ではないかと思う。よろしくお願いします。

佐藤委員

文化振興課では先日今年度の文学賞の受賞者が決まったが、高校生以下の応募者は近年少なくなっており、今回も中学生以下の応募者は一人だけであった。運営委員会の中でもこういった点について検討しているところである。今後図書館とも連携していきたい。

長谷川委員

文学館ではいわき地域文学者紹介ということで、スポット展示を年に 4 回程度実施している。また小学 4 年生が見学に来ることが多いため、そういった中で地域ゆかりの文学者を紹介している。見学に来た方に文学者を身近に感じてもらえるような展示をしているが、実際に学校がどういった取り組みをしているのかを今日知ることができたので、今後見学に来る

方々にもっと身近に感じられるような企画をしていきたい。

山上委員

これからの学校司書の研修で、総合図書館とタイアップし、図書館と学校で連携して読書につなげていこうと考えているところである。そういったところに取り組んでいきたい。

千葉委員

GIGA スクール端末が小中学校に配備されたところであり、コロナ禍、アフターコロナでは、そういったものを利用して読書活動を進めていきたいところである。総合図書館では電子図書館が開設されるということで、そういったところを活用していきたい。また、第4期が始まり、不読率解消など色々な部署でそれぞれ取り組みをしているところであるが、家庭の環境はどうなのかが気になった。外からの働きかけはあるが、親もスマホを使う機会が多い中、家庭で読書できる環境があるか、学校教育課の方でも把握していけたらと思った。

川崎委員

今年度は新しくいろいろな部署から委員が集まっているのが大変良いと思っている。子育てサポートセンターとしては、今後も図書館には良い絵本を教えていただくなど、ご指導をお願いしたい。

久保木委員

保健福祉センターが関わっている部分としては、親子健康手帳の交付や、プレママ・プレパパクラス、乳幼児・10か月健診での読み聞かせであるが、やはりコロナ対策と連携して今後どうしていくかが課題であると思っている。実際に現場では、ZOOMでプレママ・プレパパ教室を開催する、健診会場において人数を制限するなどの対応を取っており、これまで通り対面で行うのは難しくなっている。何ができるか、総合図書館、こども家庭課とその都度調整して考えていきたい。

委員長

総合図書館においては、児童図書の購入予算を大幅に増やしたので、今後児童書を充実させていきたいと考えている。こういう本を揃えて欲しいなどの要望があれば、なるべく聞いていきたい。また、電子図書館が12月稼働予定であるが、声が出たり動いたりする絵本の充実、そういった絵本の活用に取り組んでいきたい。

～議事終了～

4 閉会 武山副館長